

2025.7.3
おおたの未来づくり

第1回「キャリア探究」オリエンテーション校長講話

みなさんにお聞きします。小学校で「おおたの未来づくり」の授業を受けたことがある人はどれくらいいますか？今日から半年間、総合的な学習の時間に「探究」を学習します。全校生徒と先生、そして授業に協力してくださる地域の方とで「おおたの未来づくり」の学びを創ります。「おおたの未来づくり」は、大田区・未来社会・地域社会のウェルビーイング（Well-being）の実現のために、新たなもの、取組、仕組を、社会実装・提案・発信することが目標です。授業の名称は「キャリア探究」です。そして、「キャリア探究」は、「ものづくり」の知恵や発想力を活かし、「地域の創生」に貢献しようとする社会実装、提案、発信をとおして、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための「ありがたい姿」を創造する力を育むことが目的です。学習過程を探究の過程とします。①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現が探究の過程です。意思決定に参画しようとする共同エージェンシー（当事者意識）を発揮することが大切です。探究の過程における学習のポイントは、①批判・否定をしないこと。②自由にアイデアを出すこと。③アイデアを結合、発展させること。④アウトカム（Outcome）、アウトプット（Output）をゴール（Goal）とすることです。

みなさんは、すでに、学校の特色に応じた課題についての「探究」を始めています。運動会の生徒会種目とスローガンづくりを例にお話しします。「さらに愛される学校になるように」と、生徒会長を中心に生徒会種目を企画し、全校生徒が参加する「大玉送り」を成功させました。御園中生の「ありがたい姿」を発信しました。それが観ている人々に伝わり、保護者、地域の皆さんから大きな拍手をいただきました。アート部が製作した運動会スローガンには「目指せ、優勝。御園POWER全開！」が描かれました。スローガンの提案どおり、一体感を生み出すパワー全開の運動会になりました。みなさんで作ったみなさんのスローガンです。先生と主事さんに協力してもらい、体育館の入り口の壁に掲示しています。これらは学校の中の「探究」の取組でしたが、「キャリア探究」では学校の枠を越え、大田区・未来社会・地域社会のウェルビーイング（Well-being）の実現のために、「ありがたい姿」を社会実装、提案、発信します。

私が想像する「キャリア探究」に取り組む生徒、先生、地域の「ありがたい姿」を紹介します。

はじめに生徒の姿です。「探究の時間を通じて、問いを立てて、調査・分析をし、行動して検証するという一連の流れが身に付いたと思います。自分の進路も、探究の時間と同じように、自分なりに問いを立てて考えていきました。『問いを立てる』という難しい印象がありますが、どの教科でも行ってきたので、3年生になった今ではスムーズにできるようになりました。難しそうに思えることでも何度もトレーニングすると身に付くものだと実感しています。きっと、社会に出てからも生きる力だと感じています。」「今までは、失敗した

ら嫌だ、失敗したらそれで終わり、とっていました。探究の時間では、自分と同じ考えをもっている人がいて、その人たちと一緒に、どうしたら問題を解決できるかを考え、何度も何度も失敗を経験しながら、その失敗を次に生かそうとする考え方や前向きな姿勢が身に付きました。」

次に教師の姿です。「先生、探究の時間って何する時間なの？と生徒に尋ねられ、答えられなかった自分がいました。自分が担当している教科の魅力ならいくらでも語る事ができるのに、探究の時間については言えないのです。それからの私は、探究の時間の魅力を語る事ができることを目指して取り組んできました。今の自分なら、生徒たちの質問に自信をもって答えられるような気がします」「生徒に任せれば任せるほど、生徒には難しいテーマではないだろうか、生徒には解決していくのは無理なのではないだろうかと心配をする自分がいました。生徒のもっている力を信じること、生徒の思いに寄り添うこと、こうして自分も生徒と一緒に探究をした気がします」「私自身も生徒に触発され、自分の授業の理想型を『探究』し始めました。日々の忙しさにかまけて、例年通りの授業を進めていた私ですが、生徒に指導している『問いを立てる』を自分にも課して、授業改善に取り組んでいます。また、探究の時間は、職員室の雰囲気も変えました。教育活動の中核に総合的な探究の時間を置くことで、職員も地域課題や国際問題に興味をもつようになり、地域の方々や外部の方々との交流も増えました。何より、職員同士が活発に議論や支え合う姿が見られるようになり、チームとして機能していると感じています。『探究』で、生徒も職員も学校も成長したと思います。」

地域の方の姿です。「中学生が地域のイベントに顔を出してくれるようになりました。イベントに参加していた小学生が、自分もあの中学生みたいになりたいと言って、運営を手伝ってくれるようになりました。中学生はこどもにとって身近で、信頼できるあこがれの存在であり、親にとっては、将来の我が子の成長と重ね、子育てがワクワクする存在です。この地域はよい地域だなあと思いました。私は泣きっぱなしです。」「探究の時間は、地域づくりにつながっていると感じています。中学生が、自分の住む町や世界の課題に対して、真剣に考え行動する姿を見ることに刺激を受け、大人も負けてはいられないと思うようになりました。次のステップとして、中学生と一緒に地域づくりをしていき、地域のよさや地域づくりの楽しさを中学生と共有したいです。」

半年後、新たなもの、取組、仕組を社会実装、提案、発信し、みなさんがどのような「探究」の成果を発表するのかを楽しみにしています。

第3回「キャリア探究」校長挨拶及び講師紹介

みなさんは、探究（たんきゅう）と聞いて、どんなことを思い浮かべますか？私は、探究とは「自ら問いを立てて、その答えを仲間と一緒に生み出していく学び」だと思っています。ここでいう仲間は、同じクラスや学年の友だちだけではありません。先生や地域の方も、一緒に知恵を出し合う大切な仲間です。そして、探究の学習を通して、「自分を大切に思える気持ちや、相手のことも大切だと認める気持ち」を育ててほしいと願っています。

す。

探究には、はっきりとした「正解」はありません。みんなで考え、話し合い、描いていく、自分たちの“ありたい姿”、“ありたい社会”が、探究の「答え」だからです。探究の時間は「自分たちにとっての幸せってなんだろう?」「地域や社会の幸せや豊かさって、どんなものだろう?」、そんな問いに向き合い、自分たちの「今」を考える時間です。そこから、「地域や社会をよくするため(ウェルビーイング)に何かしてみたい」「こんなふうになりたい」「こんなふうになりたい」、そんな思いをもち、自分たちの“ありたい姿”を描いてほしいです。探究の学習をとおして、みなさん一人ひとりが、未来を創る力を培ってくれることを期待しています。

講師の先生をご紹介します。株式会社類設計室の平松拓也先生、望月宏洋先生、酒井里奈先生です。前回に引き続き、キャリア探究の授業をしていただきます。

第4回「キャリア探究」校長挨拶及び講師紹介

3年生は今、自らの進路を選択する過程で自己の生き方を考えているところです。2年生は今、職場体験に取り組む過程で自己の生き方を考えています。1年生は、人とのかかわりの中、自らの課題を解決する過程で自己の生き方を考えています。そして、キャリア探究では、自己の在り方生き方(キャリア)を考えながら、自分たち(地域社会)の課題を発見し解決していきます。

さて、私は、未来を創るためには「今」できることを、精一杯取り組むことが大切だと考えています。ここにいる私たちが、「あるべき社会」や「御園中のあるべき姿」ではなく、「今、ありたい社会」や「今、ありたい姿」を考えることが大切だと思います。「今」ここにいる、私たち自身、何を「べき」から何を「したい」への発想の転換が必要だと思います。押し付けや、窮屈なこうある「べき」論からの脱却です。「『挨拶と笑顔が自慢』、こういう人でありたいですね。」“ありたい姿”を考えることから、主体性(エージェンシー)や当事者意識(共同エージェンシー)は培われると思います。これらは「自分ごと」として考えることとも言えます。

自分たちの“ありたい姿”自分たちの“ありたい社会”についてみんなで話し合います。当然色々な考えや意見が出てきます。「批判・否定をしない」「自由にアイデアを出す」「アイデアを結合、発展させる」ことが、探究での話し合いのルールです。「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を学んでください。私の創造する“ありたい姿”としては、2年生と1年生が、3年生を手本とする姿です。同時に、3年生が「今」自己肯定感や自己有用感を感じられるような「問い」(取組目標を設定)を立ててほしいとも願っています。

キャリア探究の授業をしていただく講師の先生をご紹介します。デロイトトーマツコンサルティング合同会社マネージャーの丹雄飛先生です。それでは丹先生よろしく申し上げます。

大田区立御園中学校 校長 古川 大輔